令和５年度　教職員による自己評価・中間評価のまとめ（令和５年７月末）

湯梨浜町立湯梨浜中学校

各評価項目の取組状況
　Ａ：充分達成できている…４　　Ｂ：ほぼ達成できている…３
　Ｃ：取り組んでいるが成果が十分でない…２　　Ｄ：取組が不十分…１
※平均値について　Ａ相当 4.0～3.25、Ｂ相当～2.5、Ｃ相当～1.75、Ｄ相当～１

１　教職員による自己評価・中間評価

（１）学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード（抜粋）
［ Ｂ ］ 【2.7】 (R4　2.7) (R3　2.9) (R2　2.8) (R1　2.5) Ａ　０％ Ｂ６８％ Ｃ３２％ Ｄ　０％	○校内授業研究会の実施や校内研修の実施、協同学習の周知徹底により教員の実践意識は高まっており、生徒同士の活動もスムーズに行えている。 ○協同学習についての生徒の理解も進んでおり、話合いなどに進んで取り組む生徒が増えているように感じる。学習に苦手さを抱えている生徒も、グループの中での役割を果たしたり、自分の力を伸ばしたりするために努力しようとする場面が増えてきたと思う。 ○学年が上がるに従って協同学習が定着し、主体的にかかわり合い、授業における学ぶ態度が育ってきている。 ○研究について昨年度中断してしまった共通実践が復活し、何に取り組めばよいのかが明確になったおかげで取り組みやすくなり、研究が進み、学習活動が改善することが期待できる。 ○学習課題の形を全教員で統一すること、それを授業内でしっかり提示することで生徒たちが学ぶ目標を意識することができていたと思う。 ○学習規律を明確にし、共通理解が図れるよう工夫がされ、一定の成果が見られる。 ○３年生は２分前着席の声かけが生徒同士でできている。授業にも集中できている。 ○自ら主体的に取り組む生徒の育成のために授業での ICT の活用や新たな手法へのチャレンジを試みられている方が多いように感じる。 ▲相手のことを考えて発言したり、行動したりする力が弱い生徒がおり、協同学習を奨める以前に、コミュニケーションの取り方を学ぶべきだと感じる。 ▲協同学習を勧めている授業もあるが、全体的に受動的な授業が多いように感じる。教師の説明や指示が多く、今何を学習しているか理解できていない生徒が多いように思われる。また、プリントが多すぎて消化不良になっている部分もあるように思われる。 ▲湯梨浜中学校での勤務期間の差によって、先生方の取り組みへの差が見られる。 ▲中々自分から関わっていくことができず、受け身に感じられる生徒や特定の生徒としか関わらない(れない)生徒もいる。また、個人思考の後にグループで話し合いや確認の時間があることに甘えてしまうような様子も見受けられる。 ▲１年生は協同学習の基礎が作られている段階で、授業でグループワーク等がまだ上手に機能しない場面が多かった。 ▲主体的にという部分で懐疑的なところがあり、生徒が主体的に取り組んでいるというよりは、流れに沿ってこなしているというような感覚がある。 ▲生徒は活動しているがＮＲＴ等の学力検査の結果がともなっていない。さらなる学力の定着をめざして取り組んでいく必要があると感じる。 ▲教科の力をつけるという面において、まだまだ成果が十分ではなく、もっと研究の余地があるように思う。現状に満足せず、課題を明確にしていくことが必要に思う。 ▲生徒が追究したい学びたいと思える、本当に力のつく課題設定や授業準備を教師ができているだろうか。

	▲日々の課題やテスト課題に取り組む習慣が十分に身についておらず、未提出になってしまう生徒がいる。 ▲1 年生の中に、授業中の私語や立ち歩き、集団でのトイレ等、学習規律が徹底できていない学級や授業が見られる。 ▲忘れ物、話を聞く姿勢、礼などできている学年もあるが、徹底できていない学年もあり、差ができているように感じる。 ▲２１世紀を生きる上で ICT を活用する力が必要とされているが、なかなか生徒が使用できていない気がする。文房具と同じくらい iPad を活用すべきだと考える。しかし、そのためにはかなり明確な使用ルールを設計し、教員全員が足並みを揃えないといけない。

（２）温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード（抜粋）
［ Ｂ ］ 【2.8】 (R4　2.5) (R3　3.0) (R2　2.8) (R1　2.5) Ａ　８％ Ｂ６８％ Ｃ２５％ Ｄ　０％	○人権について考える時間を定期的に取ることができていたと思う。インターネットについての講演会を開くことなどにより、相手や自分のことについて考える場面があった。 ○学年が上がるごとに成長が見られる。各学年とも友達に対しての優しさがよく見られる。2・3 年生は「人の話をしっかり聞く」「グループで教え合いをする」など人権教育の基本の部分が実践できている。学級での仕事などについても責任をもって取り組む生徒が増えているようにと感じる。 ○年度始めのオリエンテーションで基本的な考え方を伝え、学校や地域で、様々な立場の人、様々な特性のある人が生活しているということを発信できた。 ○生徒会企画など、生徒会活動を通して学校生活を良くしようとする態度を生徒の中から引き出すような企画があり、自己や集団を顧みる時間があった。 ○委員会や係活動に全生徒が参加することで役に立っている、自分が仕事をしているという意識をつくることができていた。 ○グループワーク等を通して生活面だけでなく、学習面でも他者と関わりながら人間関係を構築しようとする意識があるように思う。 ○同じ生徒による生徒指導事案が多いが、その都度先生方が丁寧に対応されている。 ○学校体制として、生徒に役割を持たせ、責任感を育て、達成感から自己肯定感を高めようとしている。 ○郷土芸能や職場体験等を通して、地域のことについて考えたりする時間を設けることができていた。 ▲生徒間の人権意識に差がある。後先のことを考えない行動がどの学年においても見られる。 ▲人権感覚は、今後も学校生活のあらゆる場面で指導する必要性を感じる。自他共に大切にする雰囲気にはまだまだなれていない。 ▲生徒の人権感覚を磨く取り組みは不足していると感じる。それが生徒同士の仲間意識を高めることができていないことにつながっていると思う。 ▲一年生は、他者への共感性がまだ乏しく、ふさわしい言葉が使えなかったり、思いやりを欠いた行動がみられたりする場面が多かった。 ▲生徒会役員の言動、集団指導が素晴らしい。今後は各委員会、各学級の生徒会の動きが課題に思われる。 ▲何のためにしているのか、生徒は納得しているのかなどの振り返りが足りず、なんとなく流れて終わっている取り組みが多いように感じた。 ▲他人任せで自主的に行動を起こせない生徒がいる。 ▲学年を超えた、タテがつながれる仕組みがあれば、より一体感が増すのかなと感じる。

	▲生徒同士の声かけが上手でない、または人に伝わる態度・声の大きさが弱い。 ▲生徒指導関係のトラブルは特定の生徒が複数回起こすなど、生徒自身の成長にはまだまだ時間がかかると感じる。 ▲行事や特別な場合（生徒会企画等）ではそれなりの動きや成果は見られると思うが、日々の生活の中での活動は十分とは言えないと思う。個々の活動が生徒の生活に充分に結びついているとは言えない。 ▲体験的な学習や、学校生活の活動の中で、生徒に見通しを持たせるためには、教師集団がしっかりと計画を把握し、見通しを持って準備、生徒への指導にあたることが大切と考える。日々の多忙感の中で、中々うまく意思の疎通や共通理解ができていないことが、ひいては生徒に有意義な体験を通した「学び」の機会を提供できないことにならないか、危惧している。 ▲コロナ禍も終わり、地域の行事等の参加も生徒に促していけたらと思う。職場体験や各種行事で生徒自身が自己有用感を感じてほしい。 ▲自主的に人のため、地域のために進んで行動する姿がまだ不十分だと思う。

（３）保護者や専門機関、地域社会等との連携を深め、長期欠席が生じないよう努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード（抜粋）
［ Ｂ ］ 【2.9】 (R4　2.4) (R3　2.8) (R2　2.8) (R1　2.5) Ａ　８％ Ｂ７７％ Ｃ１５％ Ｄ　０％	○本年度は不登校担当者会において、SSW の協力を得ながらケース会議をもてている。どのケースもすぐには状況の変化は起きないが、新たな視点をもって生徒に対応できていると感じる。 ○スクールカウンセラー、ＳＳＷとの連携をはじめ、定期的な対策委員会の開催により、全教員に不登校生徒等の情報を周知することができていた。 ○支援会議の機会を定期的に持ったり、日頃からの家庭連絡をしたりするなど、教員が家庭との関係構築を意識していたと思う。各専門機関等との連携もできている。 ○学年団で、生徒の様子や互いの困り感などを共有しながら、生徒・保護者にどんな伝え方をすべきかを考えたり、役割分担をして生徒への対応を行ったりすることができていた。 ○先生方の関わりで、中学生になって登校できるようになった生徒や、学年が変わって登校できるようになった生徒など、不登校が改善した生徒がたくさんいる。 ○昨年に比べて、特別支援学級の生徒の中で教室を出る生徒の数が減り、頻度も少なくなった。 ○トラブルが起きたときに、管理職も含めて、学年団や担任、生徒指導の先生がすぐに対応していてよかった。また、保護者連絡もしっかりとされている。 ○職場体験や郷土芸能といった、郷土に対して興味を抱く機会が増えたことが、郷土に対する愛着の育成に良い影響を与えていると思う。 ▲欠席が続いた生徒が新たに不登校になってしまうケースが多い。 ▲不登校生徒への対応について、学年、クラス、担任によっての対応の差があったり、意識するポイントが違っていたりすると感じた。 ▲長期欠席の生徒への支援はしっかりと行っているが、なかなか学校に来られていなかったり、教室には戻れなかったりする状況がある。 ▲相談室で過ごす生徒の様子が学年団や他の教職員に伝わっていない。担任のみの関わりになっていないか。 ▲生徒同士のつながりが希薄な生徒が多く、つながりを作っていくことで欠席日数を減らしていくことができればと感じている。 ▲大きな学校なので情報を全体で共有することやアイデアを出し合うことに難しさを感じる。情報を入力して終わり、読んで終わり、と情報が一方向になりがちであると感じる。

	▲不登校対応される担任の先生のフォローを学年単位でもっとできれば感じる。 ▲特別支援学級の生徒をはじめ、個別対応が必要な生徒が多く、手が回らない時がある。 ▲特別な支援を必要とする生徒に対する手立てが不十分である。 ▲保護者との連携を取る必要がある生徒の家庭と連絡が取りづらい実情がある。 ▲郷土芸能の学習では、指導者の方が熱心に指導してくださって有り難かった。しかし、１年生の中には態度が良くない生徒もいて申し訳なかった。

２　今後の取組

（１）自ら主体的に学習に取り組む力を高める

〇一人一回の研究授業など、協同学習の理念を生かした学校全体での授業研究を継続し、協同学習の定着を図る。

・共通実践を研究会のたびに検討し、協同学習がより一層定着するよう共通実践を進化させていく。

・できるだけ多くの授業で、生徒がはっきりとしたゴールがわかる学習課題を設定する。

・授業を通じて人間関係をつくっていくという視点を持ち、生徒が活動する前にその活動をする意義を伝えるよう心がける。

・簡単な課題に取り組ませることで小さな成功体験を積み重ねさせ、学習への苦手意識の払拭と自信へとつなげていく。

・管理職などの参観者がただ授業を見るだけでなく、その都度気づいたことを授業者に伝えるようにする。

〇学習規律に対する共通理解を定期的に行うようにする。注意の声かけは必ず行い、やりきらせる部分については学年団で検討しながら徹底を図る。

〇１年生の学習規律については、委員会等の活用、２、３年生の授業を参観させる、地域の方への授業公開などを状況に応じて検討していく。

（２）日々の体験をとおして温かな人間関係を築き、自己有用感と自治的能力を高める

〇道徳の授業、人権学習をより充実させるとともに、学校行事を通して学級内での協力性を高めることで、互いを尊重し合う態度を養っていく。

〇自他共に大切にする態度を養うために、学級・学年での人権弁論を充実させる。

〇２、３年生には上級生としての自覚を促すとともに、１年生には中学生としての自覚を育みたい。そのために、全校朝会（集会)、集会形式での部活動報告会等を復活させ、一人ひとりがよりよい学校づくりに参画する意識を高めるとともに、２、３年生の姿を直接１年生に見せる機会を増やしていく。

〇職員の週間共通実践（例：５分前には掃除場所にいく、４限が終わったらすぐに給食指導等）を２学期も継続していく。

〇生徒会執行部の意欲を生かし、学校行事、生徒会企画、全校集会等で、さらに生徒を前面に出した活動を進めていく。

〇学校生活のあらゆる場面で人を大切にする言動・行動を大人から示していく、生徒の間違った発言、行動等を見聞きしたときには見逃さずその場で指導するようよう今まで以上に徹底する。

〇Q-U の分析を生かした学級、学年の取組の推進。全体指導、個別指導。

（３）教育上の諸課題について、保護者や専門機関、地域との連携を深め、解決を図る

〇定例委員会（不登校対策、生徒指導・いじめ対策、企画、特別支援等）を継続して情報共有するとともに、より具体的な方策を考えて学校全体で取り組む。

〇水曜日に隔週で不登校対策のための学年会を設定し、不登校生徒・欠席が増え始めた生徒・気になる生徒の情報交換・対策等を話し合うとともに、不登校生徒の机・ロッカーのチェック及び月例報告への入力を行う。

〇２日連続欠席で電話連絡、３日連続欠席で家庭訪問を徹底させる。

○１ヶ月に１回いじめ対策に関する学年会を水曜日に設定し、その日に実施したいじめアンケートへの対策を話し合い、その週のうちにあがってきたいじめ事案についての解決を図る。
○不登校、特別支援教育等においては、保護者の悩みも傾聴しながら、協力関係を築くように心がける。また、これまで通り必要に応じて専門機関につなぐようにしていく。
○職場体験や郷土芸能のような地域と関わる活動は今後も継続していきたい。